

清流の息吹を訪ねて 魚映え(さかなばえ) 川魚の撮影にチャレンジ

このコーナーは、市内山ノ内
で釣りに関するアドバイス
などを行う(株)フィッシュナビ
の代表で、「魚の専門家」
の八鳥洋二さんから寄稿
いただいています。

鎌倉も秋の行楽シーズン。カメラ片手に自然散策を楽しむ姿に、改めて鎌倉には自然好きな方が多いことを実感します。鎌倉の四季を表現する方法は十人十色ですが、共通して言えることは、身近な自然を寄せ集め、それを自分流に創作するところにあります。私のお魚写真もその一つで、「誰もが見過ごす小さな発見」をテーマに、創意工夫して表現するところに楽しさを見出しておりま



魚とリング(砂押橋のバス停から撮影)
水面に落ちた虫を食べた時にできる波紋

す。そこで今回は「魚映え」と称し、私の観察視点からみた「川魚の撮影ハウツー」を皆さんにシェアします。

まず、魚を撮影する上で困ったことは、水面が反射してうまく撮らせてくれないことでした。どうしたらよいものかと足繁く通った結果、どうやら「太陽が高い位置にある時間帯」を狙うと、水面が反射することなく魚がキレイに撮れることが分かりました。そしてその際にできる波紋や影も重要な役割をしており、これらを有効活用することで、水中を舞う魚を引き立ててくれるのです(私はシャッター押すだけ、演出は自然任せ)。

これから秋が深まるにつれ、アユは海へ下ってしましますが、河川に残り組のオイカワやカワムツたちが皆さんをお出迎えしてくれるでしょう。